

2019（令和元）年 10 月 18 日

全国国立大学附属学校 校園長 各位

全附連「教育研究についての調査・2019（令和元）年度」のお願い

全国国立大学附属学校連盟  
教育研究委員会 委員長 上濱 龍也

秋冷の候、貴校園におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、平成 29 年 8 月に「国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議」の報告書が公表され、教大協・全附連では「これからの附属学校のありかたを考える協議会」が開催されてきました。これからの附属学校の目指す方向として、大学・学部や地域との連携、公教育のモデルとなり附属の外が良くなること、という一つの方向性が示されました。

全国国立大学附属学校連盟 教育研究委員会では、全国の附属学校園の教育や研究活動の現状を把握し、現在直面している課題を明らかにすると共に、各附属学校園が大学や学部と協議を行う際の参考となり、また、全国の附属学校園にとって互いに有益となる情報を得るという目的から、「教育研究についての調査」を定期的を実施しております。附属学校園が置かれている状況は今後益々厳しくなることが予想され、各校園が自身の強みを確認し弱点を明確化するとともに、全国の附属学校園で情報を共有することが重要であると考えられることから、今年度も引き続き同調査を実施いたしたく存じます。

今年度は、昨年度の調査を基本としつつ、教育研究の事業等の実施にかかわる記述項目を中心に調査をいたします。加えて、各事業等に関するキーワードをご記入いただくことで、全国の附属学校園の情報を整理しやすくしていきたいと考えております。また、附属学校園として解決すべき様々な課題が山積していると思いますが、今年度はそれらの課題に関しまして、教育研究に関する取り組みにかかわるエビデンスの収集方法についても伺います。

大変お忙しいとは存じますが、全国の附属学校園が、引き続き様々な改革に取り組みながら、さらに発展して行けるように、本調査に御協力賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。